

グリーンレター Green Letter

Green Column グリーンコラム

01 ウチワスナヤツメを捕まえる

02 蛍が舞う風景

Vol.333

2025/04/01



町田善康 《タイプ標本》

Photo 今月の1枚

水産大学校の酒井治己さんをお招きし、北海道で見つけた新種ウチワスナヤツメについて詳しくお話を伺いました。実は、このウチワスナヤツメ、美幌博物館で初めてのタイプ標本（パラタイプ）として収蔵されることになった標本です。貴重な標本を未来に残すため、一層の努力が求められます。（町田善康）

ウチワスナヤツメ を捕まえる

写真・文／町田善康

体の側面に7つの穴があり、それがまるで目のように見えることから、本来の眼と合わせて「八目（ヤツメ）」と呼ばれます。私たち哺乳類や魚類の共通祖先からは、約5億年前に枝分かれました。口には顎^{あご}がなく、5億年前から姿を変えていないことから、生きた化石と言われる原始的な脊椎動物です。一方、体が細長いのでウナギと混同されますが、全く別の生き物です。

日本では、大型のカワヤツメが食用にされ、滋養強壮や夜盲症の薬として珍重されています。肉は固く牛モツのような歯ごたえで、独特のヤツメ臭します。私は、かば焼きにして食べたことがあります。それほど美味しいものではありませんでした。

さて、最近、水産大学の酒井治己さんらの研究グループによって新種ウチワスナヤツメが発見されました。実

は、このウチワスナヤツメ、私が採集した標本がホロタイプ（新種の基準になる学名を担うただ一つの標本）として国立科学博物館に登録されました。新種を見つけることは、幼少期から憧れていたことなので、本当に嬉しい出来事でした。次は、自分で新種を見つけ、登録できるよう精進していきたいと思います。

ちなみに、ウチワスナヤツメと、他のヤツメウナギ類との識別点は、写真のように歯が丸くなっていることと、尾^お鰭^{びれ}がウチワ状になっていることです。

蛍が舞う 風景

写真・文／鬼丸和幸



特別展「蛍が舞う風景」が始まります。今回、久しぶりに特別展を担当しました。蛍をテーマにした特別展は、平成18年以来の2回目となります。

通常、博物館で開催する昆虫をテーマにした展示会は、たくさんの昆虫標本が展示され、昆虫の体の仕組みや不思議な生態などについて、深く掘り下げることが一般的なのですが、今回の展示では、純粹に自然の中で見られる蛍の姿の美しさや、蛍が暮らしている風景の美しさを、写真を通して感じてもらうことで、蛍という生き物に親しみを感じてもらうことに主眼をおきました。写真は、道内外で撮影しました約100点を展示させてもらいました。全て、撮影にあたりエピソードを伴った作品を選びました。紙面に載せました写真は、数年前に郊外の農業用水路で飛び交うヘイケボタルを撮影したも

のです。この場所は、昔、辺り一面水田が広がり、毎年多くのヘイケボタルが見られた場所でしたが、人間生活と極めて近接した環境にあるため、隣接した道路の街灯がLED化され、これまで以上に明るくなったり、農業経営上の理由から、用水路の水環境が変わったりしたこともあり、今では蛍の姿が激減してしまいました。

展示会では、写真のほか、江戸時代以降に蛍をモチーフにした美術作品（浮世絵をはじめ、様々な工芸物）も展示しています。日本人が、蛍を情緒豊かな美的対象物として受け入れていたことを、作品を通して感じていただけたら幸いです。ご来館、お待ちしております。

Exhibition 展示

特別展「蛍が舞う風景」

～10月26日(日)

Event イベント

持ち物等は申込時にご確認ください

プチ工房「ザリガニばさみ」

4/11(金)、12(土) 10:00～12:00、14:00～16:00 自由入室で作品
ができ次第終了
美幌博物館 1 階 講座室・300 円

講 師／町田善康(美幌博物館)

対 象／どなたでも(小学3年生以下は保護者同伴)

申込み／お電話で美幌博物館まで。各日50名で、空きがあれば当日申込みも可。

こどもの日無料開館

5/5(月) 9:30～17:00

こどもの日イベント「柏もちプレゼント・せんべい焼き・工作」

5/5(月) 9:30～14:00

美幌博物館・無料

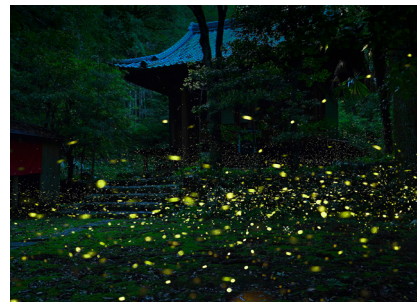
講 師／美幌博物館スタッフ

対 象／どなたでも(小学生以下は保護者同伴)

申込み／申込み不要。柏もちは先着500名。

送付先の変更、または停止などをご希望の場合

お引越しなどでご住所が変わられた、あるいは送付を止めてほしいなどのご希望がございましたら、美幌博物館までお知らせください。



Tweet つぶやき

生活習慣病対策に、ウォーキングやろうとして挫折していましたが、展示会の準備で展示物を運んだり、ライト調整で脚立を上り下りしていたら、万歩計で1日軽く8,000歩を超えていました。少しは体脂肪減少につながったかもしれません。(鬼丸和幸)



美幌博物館月刊情報誌 Green Letter

【発行】美幌博物館

【デザイン】城坂結実

【編集】城坂結実

【お問合せ】美幌博物館

〒092-0002

北海道網走郡美幌町字美禽 253-4

Tel. 0152 (72) 2160

Fax. 0152 (72) 2162

